

特集 “自ら学べ”プロジェクトを考える

「“自ら学べ”プロジェクト」
で宿題をなくしたことによっ
て、神中生が勉強しなくなった
と聞いたのですが、本当ですか。
(其礼和 小丸 さん)



令和元年1学期末の学校評価アンケート（保護者）では、「宿題なし」について厳しい意見が多くでました。保護者は4割が賛成、6割が反対という結果でした。反対の理由の多くは、「宿題がなくなって勉強しなくなった」「宿題がないと勉強しない」というものでした。しかし、「昨年と比べて勉強時間は増えているか」との質問には、生徒は半数が「増えている」

と答えていました。このギャップは、学校で終わりの会の前に「まとめ学習」の時間が新たに設けられたこと、授業の中でも最後に自学の時間を設けるようになったことが原因ではないかと考えています。学校の中では、集中して勉強できるようになった神中生が、家庭学習にもしっかり取り組めるようにと、「“自ら学べ”プロジェクト」の具体策として、下のような方針を確認するとともに、オーダーメイド・ホーム制度を導入することにしました。

- 1 各教科のワークは定期テストの前の週の木曜日までの提出とする。
- 2 授業の最後10分間（45分授業の場合は5分）を、自主学習やドリル等の時間にします。
- 3 まとめ学習や授業の最後の時間に、先生に質問できる時間をつくる。
- 4 まとめ学習、家庭学習用のプリントの充実を図る
- 5 「オーダーメイド・ホームワーク」制度を導入する



「オーダーメイド・ホームワーク」は効果があった
のですか？
(矢玲場 出来琉 くん)



勉強したい教科の先生にお願いして「自ら宿題をだしてもらおう」という制度が「オーダーメイド・ホームワーク」制度です。この制度は、令和元年度の11月にインフルエンザと共に、神町中学校で大流行しました。「先生方が、自分のレベルに合わせてプリントをつくってくれるので、やる気が出ます。分からないところを、遠慮なく聞けるのもうれしいです。」「授業がわからず、点数もとれなかった。単語、読み書き、長文などいろいろな問題を出してくれるので、授業もわかり点数も上

がった。これからも続けたい。」などの感想がよせられました。また、自分はなまけ心に負けてしまうという生徒からは、『分からない所が多かったので、分かるようになりたかった。課題を与えられた方が、「やらなきゃ」と思ってやる気が出る。』という感想が届いた。少しずつではあるが着実に、“自ら学ぶ”神中生が育ち始めていると、夢色通信社では分析している。(続く)